

### 過去問の学習方法

1. 過去問は最高のバイブルです。専門校の答練にも良問はありますが、やはり本試験に叶うものではありません。特に事例Ⅳの経営分析は、各企業の数値を徹底的に洗い出す練習をすれば、必ず本試験での対応力を確保できます。

DVDでは話していませんが、平成 24 年度の論点と同様のものは、平成 17 年度で予想財務諸表の問題が、16 年度で企業価値の問題が出題されています。Amazon やオクシオン等を利用してできるだけ過去問を解く事をおすすめします。

### 事例Ⅳの本番での対処方法

1. 最初の 20 分は、とにかく我慢。どこに配点があるか？そのうち自分は、どこで点を取るか（できるだけ単独問題）をしっかりと設計する。
2. 「いける」と思って途中まで実施した問題であっても、途中で無理と感じたら「すっぱり、あきらめる事」も大事
3. 記述問題は、とにかく「解答要求」と「与件」を照らし合わせれば、「何か」書く事は可能。過去の受験者から「あの答案でAとがビックリ」という声はよく聞きます。決してあきらめず、最後の 1 分まで力を振り絞ってください

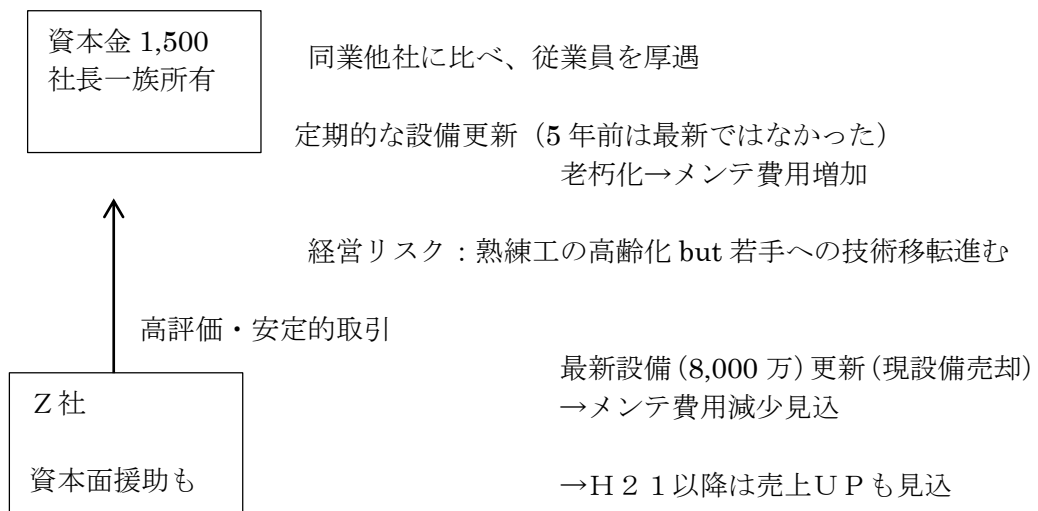
平成 20 年の対処法（大問の配点はそのままで、設問の傾斜が極端な可能性あり）

①20 分間で設計

		傾斜配点	◎	○	×
第 1 問	$a \cdot b$	15	10	5	
	$c$	15	10	5	
第 2 問	設問 1	5			5
	設問 2	10			10
第 3 問	設問 1a	15	15		
	設問 1b	5		5	
	設問 2	5		5	
第 4 問	設問 1	15	13	2	
	設問 2	15	12	3	
合計		100	60	25	15

ちなみに、2 次試験初年度の私は、第 1 問の 2 つ、第 3 問の設問 1a、第 4 問の設問 2（1 はうまく書けなかった）事で、足切を覚悟しましたが、B 評価でした。傾斜はかなりされていると思います。

(解説)



第 1 問 同業他社と比べた問題点

第 2 問 税引前営業CFの現在価値  
現主力設備のまま→経営状況の予想→とるべき対策

第 3 問 固定資産売却損  
予想税引き前純利益  
負債の節税効果

第 4 問 資金調達を全額負債に依存した場合の問題点  
出資してもらって、なおかつ経営権維持

<解説>

では、確実に取りたい論点から説明します

## 第1問

では今回の問題をD社と競合他者を比較してみましょう

	指標名	D社	同業他社
収益性	総資本経常利益率 (総合的な収益性を判定)	-1.23%	1.67%
	売上高総利益率	23.64%	31.33%
	売上高営業利益率	0.91%	2.17%
	売上高経常利益率	-0.55%	1.67%
効率性	総資本回転率	2.25回	2.34回
	棚卸資産回転率	17.19回	31.58回
	有形固定資産回転率	3.87回	3.95回
	売上債権回転率	22回	17.65回
短期安全性	流動比率	101.03%	130.38%
	当座比率	61.86%	102.53%
長期安全性	固定比率	374.36%	175.86%
	固定長期適合率	99.32%	86.44%
	自己資本比率	15.98%	33.98%
	負債比率	525.64%	194.25%

<与件分から考えられる指標>

技術力が評価・・・売上高総利益率

定期的な設備更新・・・有形固定資産回転率・売上高営業利益率

メンテナンス費用増加・・・売上高総利益率

資金調達が体力に比べて過大・・・自己資本比率

従業員を手厚く・・・売上高総利益率

【同業他社との比較もあわせると】

売上高総利益率・自己資本比率・当座比率

第3問

税金 40%

20期首	21	22	23	24	25	26
8,000万 (8%)			4,000万 (3年)			4,000万 (3年)
金利	640	640	640	320	320	320
40%	256	256	256	128	128	128

<現主力設備の売却>

期首減価償却累計額  $3,500 \times 0.9 \div 10 \times 5 = 1,575$

売却 現金 100 / 固定資産 3,500

累計 1,575

損 1,825

第4問

設問1・2 知識問題だが、何とかかけるでしょう

問題1は倒産リスクを

問題2は議決権制限株式

次に何とかとりたい問題

第3問の設問2 (上記タイムテーブル)

$$128 \times 2.5771 \times 0.7938 = 261.8498 \dots$$

$$256 \times 2.5771 = 659.7376$$

$$\text{合計 } 921.5874 \dots$$

第3問の設問1のbも何とか

税引前利益 (資料から)	△300万
固定資産売却損	△1,825万
節約額	+2,000万
減価償却増分	△485万
支払利息	△640万
最終税引前利益	△1,250

本試験では、「黒字に転ずる」という言葉 (翌年度以降ではあるが) に引きずられ、△になった事である事が想定されます。従って、「できれば」にした次第です

<没問>第2問

設問1は論点整理ゼミでも説明済みですが、内容掲載しておきます

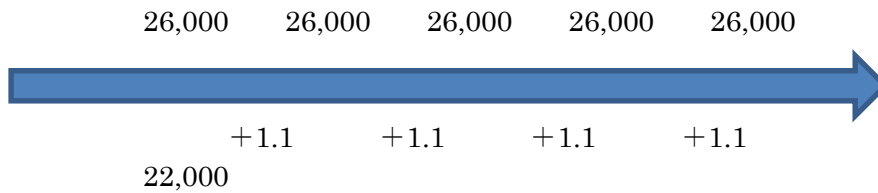
現設備は5年間の稼働が可能。

年間現金売上収入は26,000

年間現金操業費支出22,000、今後は每期10%増加

$n=5, r=0.1$ の年金現価係数は3.7908

税引前営業CFの現在価値を求めよ



収入の現在価値  $26,000 \times 3.7908 = 98,560.8$

支出の現在価値  $22,000 \times 5 = 110,000 \rightarrow 110,000 \div 1.1 = 100,000$

税引前営業CF  $\Delta 1,439.2 \rightarrow \Delta 1,439$  (四捨五入)

記述は若干悩ましい

第3問では黒字に向かうと書いているが、与件では「売上増加とメンテ費用減少」のみであり、減価償却費や支払利息を考慮すると、5年間で黒字とは言い切れない。

とりあえず、投資初年度の赤字増加に触れ、その後9年のNPV確認してからプラスであれば取替を行う、という感じが望ましいと思います。

解法テクニックが思い浮かばない人は、普通に割引計算で処理しても別解が認められるでしょう。